

授業科目名・形態	手話	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	三ヶ田 典明	開講期	1～2年前期	単位数 1

【授業の主題】

聴覚障害者は、聞こえないことを理解されにくく、誤解や疎外を受けやすい。しかし障害の特性を理解し、手話・指さし・筆談など適切な支援を行うことで、コミュニケーション障害の軽減は可能である。本講義では、聴覚障害者との対応の留意点を解説し、会話に必要な手話の基礎技術の習得を目指す。

【到達目標】

- 1) 聞こえない、話せないという障害の本質を理解すること。
- 2) 手話の基礎文法（疑問の表現、表情、空間の活用、時の経過、方向性など）を理解すること。
- 3) 指文字 50 音を完全にマスターすること。（必須）
- 4) 聴覚障害者を取り巻く社会の現状と、支援の方向性を理解すること。

【授業計画・内容】

第 1 回	講義…手話・聴覚障害の基礎知識	実技…伝えあってみましょう（身振り・あいさつ）
第 2 回		実技…自己紹介①・②（名前・家族・趣味、指文字）
第 3 回		実技…自己紹介③（仕事・家の場所）
第 4 回	実技試験…ビデオ収録（自己紹介①～③の表現が身についているか）	
第 5 回	難聴擬似体験（言われていることが分からない＝音声で情報が得られない体験をする）	
第 6 回	講義…ろう教育について	実技…受付①～②、科の手話、受付で使う手話
第 7 回		実技…問診①～⑨、症状・病名の手話、日時の手話
第 8 回		実技…問診⑩～⑫
第 9 回	講義…手話通訳とは	実技…診察①～⑬
第 10 回		実技…診察⑭～⑰、ゲスト交流の練習
第 11 回	実技試験…聴覚障害ゲストとの交流（手話積極的に会話が出来ているか）	
第 12 回	聴覚障害者活動と福祉制度	実技…検査①～⑧、検査の手話単語
第 13 回		実技…主な検査の流れ
第 14 回		実技…治療①～⑧、薬の種類・剤形・使い方の手話
第 15 回	手話サークルとは	実技…薬局①～⑦

【授業実施方法】

講義・解説……講義形式で行う。主に音声・パワーポイント表示で行う。

実技演習……グループワークによる演習・発表を行う。主に音声以外の方法を用いて指導する。
手話以外の伝達方法についても学習する。

【授業準備】

指文字 50 音は慣れれば 1 分もかからない。授業前にウォーミングアップとして最低 3 回行ってくことこと。

【主な関連する科目】 障害者福祉論・コミュニケーション技術・コミュニケーション論

【教科書等】

テキスト：手話で必見！医療のすべて（一般社団法人 全日本ろうあ連盟）

資料：自作プリント・DVD 他

【参考文献】

適宜講義中に指示する

【成績評価方法】

実技試験 60%、演習への取り組み 20%、課題レポート 10%・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

聞こえる人の常識では、「会話は通じるのが当たり前。通じないのは、ちゃんと聞いていない」であるが、聴覚障害者の常識は、「会話は努力しないと通じないもの。通じないのが当たり前」である。

授業中に通じないのを恥と思わず、失敗は修正のチャンスとプラスに考え、習った手話をどんどん使ってみる積極性が欲しい。